

2022年7月3日 聖餐式説教

イエス様に 12 弟子がいたことはよく知られていますが、それがすべての弟子だったのではなく、今日の福音書には 72 人の弟子が別にいたことが記されています。弟子たちの役割は、イエス様と生活を共にし、神の国を伝える役割を共に担うと共に、イエス様が天に帰られた後は、世界の国々にイエス様を伝える役割を担うことでした。

本日の福音書を見ますと、72 人を任命したイエス様は、ご自分が行くつもりであったすべての町や村へ弟子たちを拝見いたしました。イエス様を証する宣教活動は、聖霊降臨日を持って教会の誕生とともに始まると考えられることが多いのですが、実はこの時に初めて、イエス様による派遣が始まっていたのです。

イエス様が弟子たちを派遣したのは、主にユダヤの国内でしたでしょうけれども、それが次第に広がり、今日に至っているのも事実です。すなわち、今キリスト教が伝えられているところは、イエス様が行くつもりであったところであり、偶然み言葉が伝えられていたわけではないわけです。イエス様はこの川越にも来るつもりでおられたのです。イエス様の宣教は、教会の都合や人間の都合によって行われたわけではなく、イエス様が行こうとされたその意志によって始められたということになります。

そして宣教の原点は、平和を告げ知らせるということです。聖書の語る平和と言うのは、戦争がない、闘いがないということではありません。憎しみや恨み、ねたみがない、愛に満ちた世界のことを平和と言っているのです。世界平和は全世界の人々の願いではありますが、現在も含め、この地上から戦いがなくなつた時がないのは悲しいことです。そして私たちの心から、憎しみや恨みがなくならない限り、この世界に真の平和が訪れることがないのを改めて学ばねばなりません。

本日の福音書の最後のところで、サタンが稲妻のように天から落ちるのを見ていたとイエス様が言っている場面があります。サタンは神の国へ入ることを許されず、地上にしか住めなくなった、しかしその地上でサタンは、神の国へ誰も行けないように人々を誘惑し、墮落させようとしているというわけです。イエス様は悪魔の姿が稲妻のように見えるとしても、私たちにはその存在も働

きも見えません。いつ私たちが墮落に向けて歩ませようか、と誘惑しているのです。

しかし教会には、悪魔に打ち勝つ権威が与えられていることがはっきりと本日の福音書に書かれています。イエス様自身によって与えられた権威により、教会は罪の赦しと、悪の力に打ち勝つあらゆる権威が与えられているのです。私たちは孤独に、何の助けもない中で悪魔と戦うわけではない、打ち勝つすべてを神様から与えられているのであり、誘惑に負けずに歩み続けることが語られているのです。愛することのできない悪魔へ愛をもって歩み続ける重要性が示されています。

世界中で不安と混乱の多い日々が続きますが、真の平和を追い求めつつ、この夏を共に過ごしてまいりたいものです。